

うちなーのみじ

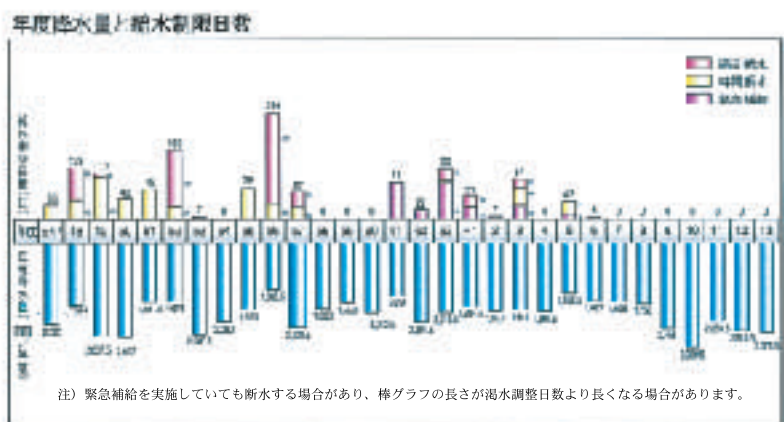
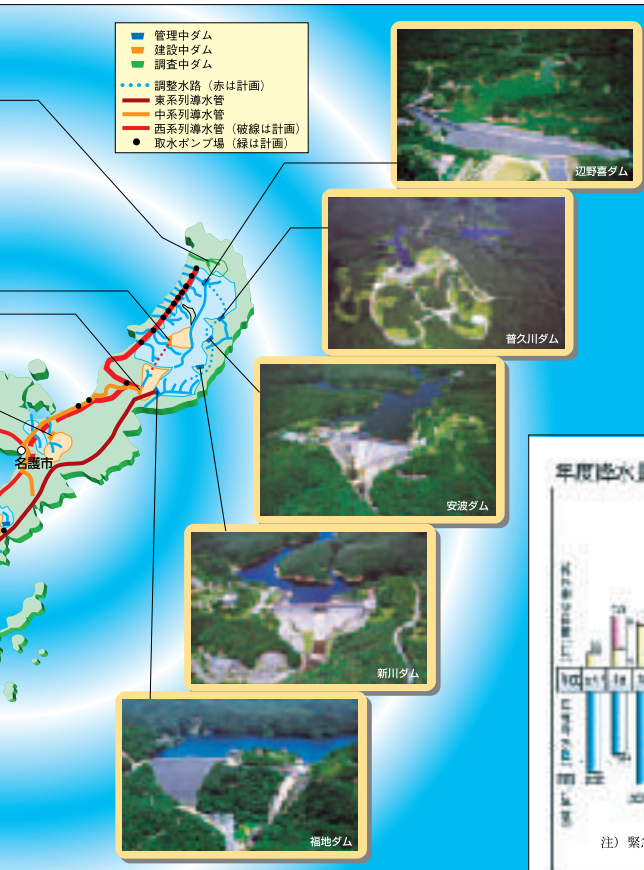
水資源開発と流域連携について

① 沖縄本島の水資源開発

沖縄総合事務局においては、沖縄本島の緊迫した水事情に対処するため、昭和四十七年の本土復帰以降、他目的ダム建設を促進してきました。今回、これまでの水資源開発の取り組み状況と今後の展望について紹介します。

- ◆ これまでの取り組み ◆
- ◆ 復帰直後の水需要状況 ◆

本土復帰からの十一年は、毎年のように渇水が繰り返され、特に昭和五十六年から五十七年にかけは記録的な干ばつで、給水制限が三百二十六日にも及び、県民生活に多大な影響を与えました。

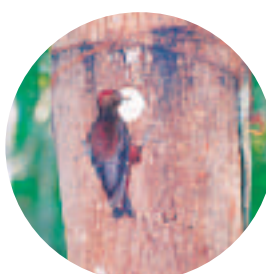


多目的ダム事業 30年の成果
(福地ダム、新川ダム、安波ダム、普久川ダム、辺野喜ダム、漢那ダム、倉敷ダムが完成)

項目	復帰当時	現在	効果
ダムの数	3	9	3倍 (6ダム増)
有効貯水容量 (千m ³)	4,200	93,750	22倍 (89,550千m ³ 増)
洪水調節容量 (千m ³)	0	18,900	— (18,900千m ³ 増)
利水容量 (千m ³ /日)	4,200	76,590	18倍 (72,390千m ³ 増)
水道用水容量 (千m ³)	4,200	52,630	13倍 (48,430千m ³ 増)
工業用水容量 (千m ³)	0	17,030	— (17,030千m ³ 増)
農業用水容量 (千m ³)	0	1,740	— (1,740千m ³ 増)
不特定容量 (千m ³)	0	5,190	— (5,190千m ³ 増)
ダムによる開発水量 (m ³ /日)	32,900	374,600	11倍 (341,700m ³ /日増)
水道用水 (m ³ /日)	32,900	294,200	9倍 (261,300m ³ /日増)
工業用水 (m ³ /日)	0	68,400	— (68,400m ³ /日増)
農業用水 (m ³ /日)	0	12,000	— (12,000m ³ /日増)

◆ ダムによる水資源開発 ◆
こうした深刻な水事情に対応するため、沖縄総合事務局では、米軍陸軍工兵隊の手によって建設途上にあった福地ダムを継承し昭和四十九年に完成させました。その後、平成八年後までに新川ダム、安波ダム、普久川ダム、辺野喜ダム、漢那ダム、倉敷ダム（旧瑞慶山ダム）を順次完成させ、県民生活の向上と産業の発展に大きく貢献してきました。

◆ 自然環境との調和と保全 ◆
沖縄本島北部は自然環境の極めて豊かな地域であり、ダム建設による自然環境への影響を最小限度に抑えることが重要な問題となっています。そのため、ダム建設にあたっては、自然環境との調和を図るためノグチゲラの人工営巣木や魚道の設置、小側溝の採用など、生態系保全対策を積極的に実施しています。



人工営巣木を利用しているノグチゲラ

◆ 地域に開かれたダム造り ◆
ダム湖及びその周辺が地域住民の憩いの場、学習の場となるように親水性に富んだ公園やダム資料館などの整備に積極的に取り組んでいます。



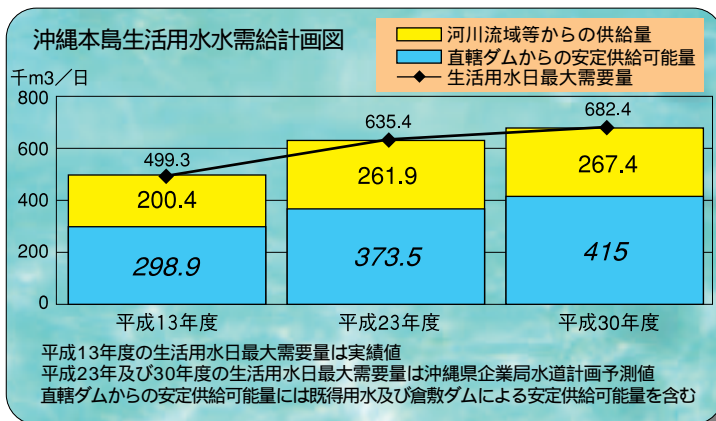
倉敷ダムへの注水を利用した人工河川 (やんばるの川)

◆今後の展望◆
本県においては、県民の生活水準の向上や観光客の増加等に伴い水需要は益々増加する状況にあり、水源開発は引き続き重要な課題となっています。そのため、多目的ダムによる河川流域の治水対策と合わせた水資源開発が必要となっています。

◆多目的ダム建設事業◆
羽地ダムは、現在試験湛水中であり、平成十六年度の完成を予定しています。大保ダムは、平成十四年八月に脇ダム本体工事を発注（本ダム本体工事についても平成一四年度中に発注予定）し、平成二十一年度の完成を予定しています。億首ダムについては、ダム本体工事に向け、用地買収を行っています。

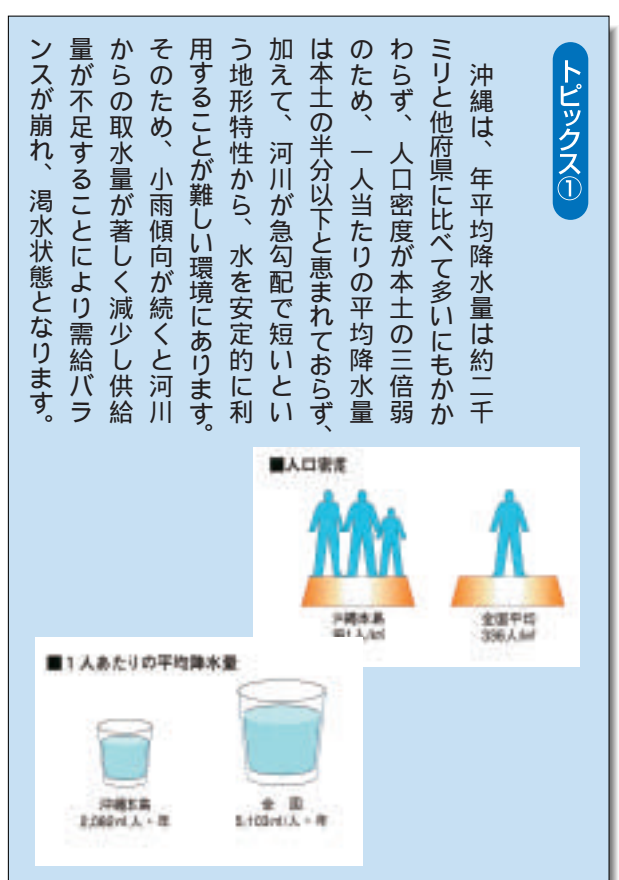
多目的ダム事業 10年後の展望
（羽地ダム、大保ダム、億首ダムが完成）

項目	現在	10年後	効果
ダムの数	9	11	1.2倍（ 2ダム増）
有効貯水容量（千m3）	93,750	139,500	1.5倍（ 45,750千m3増）
洪水調節容量（千m3）	18,900	27,150	1.4倍（ 8,250千m3増）
利水容量（千m3/日）	76,590	114,090	1.5倍（ 37,500千m3増）
水道用水容量（千m3）	52,630	76,720	1.5倍（ 24,090千m3増）
工業用水容量（千m3）	17,030	17,030	—
農業用水容量（千m3）	1,740	9,980	5.7倍（ 8,240千m3増）
不特定容量（千m3）	5,190	10,360	2倍（ 5,170千m3増）
ダムによる開発水量（m3/日）	374,600	555,800	1.5倍（ 181,200m3/日増）
水道用水（m3/日）	294,200	392,300	1.3倍（ 98,100m3/日増）
工業用水（m3/日）	68,400	68,400	—
農業用水（m3/日）	12,000	95,100	8倍（ 83,100m3/日増）



トピックス② 【水源地域ビジョン】
ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るため、水源地域の自治体、住民等がダム管理者と共同で、水源地域活性化の行動計画となる「水源地域ビジョン」を策定・推進することとなっています。

県内では、福地ダム・新川ダムの水源地域ビジョンを策定するため、学識経験者、住民代表、沖縄県関係部局、東村役場、沖縄総合事務局で構成される「福地・新川ダム水源地域ビジョン策定委員会」を平成十四年九月に発足させました。今後、本委員会において議論を重ね、今年度中に「福地・新川ダム水源地域ビジョン」を策定し、諸施策を推進する予定です。



② 流域連携

1、「沖縄玉水ネットワーク」

平成九年度の河川法改正により、河川整備計画策定には市民の意見を反映させることとなっていますが、計画から管理まで市民が参画するには、今まで以上に市民団体の活動が活発化することが必要となるとともに、行政との役割分担を行う必要があります。

そこで、市民の組織活動を一層充実させ、「川づくり」へ反映させるため、市民団体の横のつながりを構築することと行政との協働体制を考えるものとして、「沖縄玉水ネットワーク」が発足しました。

「沖縄玉水ネットワーク」の活動内容及び構成は次のとおりです。
構成団体の活動状況、河川に関する様々な情報発信を行います。
構成団体の活動状況の報告会や勉強会などを開催します。

「玉水」とは、水滴状の水が光を受けた時にキラキラと光り輝く様をいう。その状態がまるで「玉」のようだから玉水という。

第3回
世界水
フォーラム

2003年
3月16日～23日

京都・滋賀・大阪を結び
琵琶湖・淀川流域で開催

「沖縄玉水ネットワーク」構成

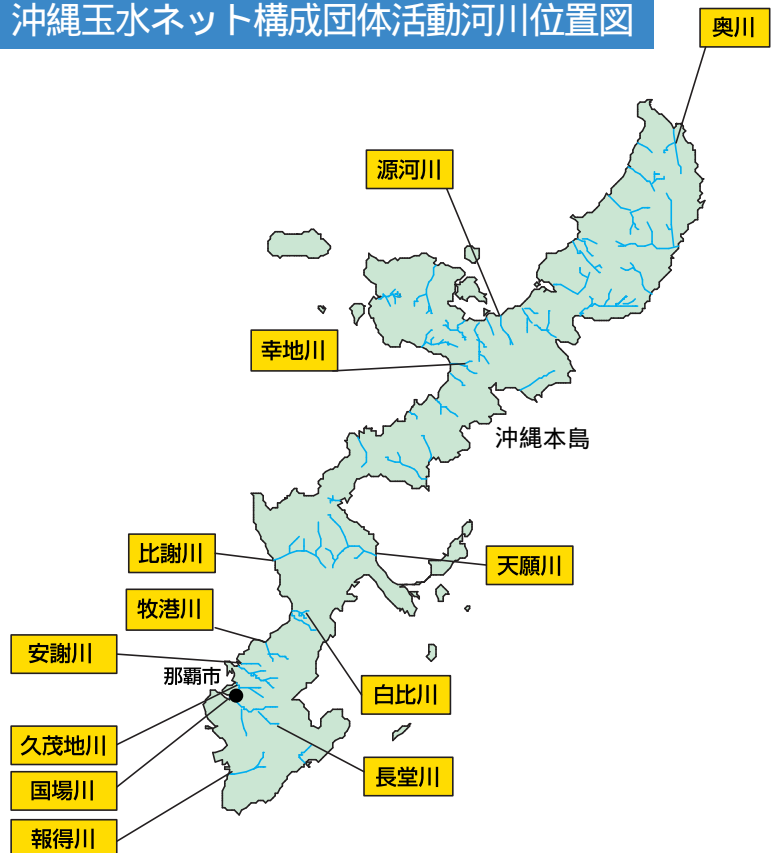
河川名	団体名
奥川	奥川にアユを蘇生させる会
源河川	源河川にアユを呼び戻す会
幸地川	幸地川を蘇生させる会
天願川	具志川市水と緑を考える会
比謝川	比謝川をそ生させる会
比謝川	YOU・遊・比謝川実行委員会
白比川	白比川の自然を残す会
牧港川	牧港川をきれいにする市民の会
安謝川	安謝川をきれいにする住民の会
久茂地川	久茂地川フェスティバル実行委員会
国場川	国場川に清流をとり戻す会
長堂川	長堂川に清流をとりもどし山川の生活環境をよくする会
報得川	報得川と美海の会
	行政沖縄総合事務局河川課 沖縄県河川課

2、「沖縄の水と川を
考えるフォーラム」

今年度、世界水フォーラムが日本で開催されること、「沖縄玉水ネットワーク」の発足を記念し、水と川をめぐる様々な課題について討議するため「沖縄の水と川を考えるフォーラム」を平成十四年九月十六日（月）、具志川市立川崎小学校で開催しました。

当日は、河川愛護団体、川に係わ

沖縄玉水ネット構成団体活動河川位置図



る各行政機関、学校の先生、川づくりに携わった施工業者等約百四十人が参加。六分科会に分かれて、活発な意見・情報交換や提案を行いました。ここにフォーラムの内用を紹介します。

第1分科会「水利用のあり方」
中南部の自助努力
座長：神山 満夫（比謝川をそ生させる会）

第2分科会「河川の浄化対策」
特に畜舎廃水について
座長：崎山 正美（久茂地川フェス

沖縄本島の水供給は、本島北部の

ダム及び河川からの供給がその大半を占めており、これ以上の水供給負荷を今後とも本島北部に求めるだけでなく、雨水や下水処理水等の有効活用、節水対策の推進を特に中南部ですすめるにあたっての課題等について討議しました

ティバル実行委員会

河川環境問題の大きな柱として水質問題があり、その最も大きな要因として畜舎廃水があります。畜舎廃水に対する法整備がなされ、本格的に取り組むことが決定されていますが、様々な課題が考えられます。そのためこれらの課題を整理し解決策を模索しました。

第3分科会「魅力ある河川愛護活動の取り組み」～活動を継続するために～

座長：神山 吉朗（YOU・遊・比謝川実行委員会）

河川愛護活動を継続し発展的に取り組むため、活動組織の若返り方や魅力ある活動方策について、議論しました。

第4分科会「川での総合学習」
座長：松本 好郎（報得川と美海の会）

小中学生を対象とした河川における総合学習のあり方について学校現場での取り組みと問題点を議論しました。

第5分科会「市民グループと河川のあり方」～市民と行政の協働について～

座長：高平 兼司（具志川市水と緑を考える会）

河川管理を市民グループが行うた

めの今後の取り組みについて官と民の役割分担、責任の所在等を踏まえ、新たな仕組みづくりについて議論しました。

第6分科会「魅力ある川づくりと住民参加」

座長：寺田 麗子（久茂地川フェスティバル実行委員会）

川づくりには本格的に住民が参画した天願川の事例を紹介し、住民参加の川づくりの課題等について議論を行いました。

3、おわりに

本フォーラムは沖縄の水と川をめぐる課題について討議しましたが、課題解決に向けて、今後も地道に取り組んでいくことと、地域住民、関係機関の協力が必要です。それには、「沖縄水ネットワーク」の連携の輪を更に拡げていく必要があります。沖縄総合事務局も微力ながらお手伝いしていきます。

今回は、課題に対して地域住民と行政が協働で取り組む最初の一歩となるもので、その歩みを「継続」させることが重要と考えています。

最後に本フォーラム開催にあたり、御協力頂きました関係各位の皆様にご場をお借りしまして御礼申し上げます。



第6分科会
住民参加の川づくりについて説明する
「具志川市水と緑を考える会」の会員



第2分科会
畜舎廃水対策について説明する参加者



第1分科会
水利用のあり方について討議する参加者



全体会議
分科会の報告を聞く参加者



全体会議
第5分科会でまとめた内容について報告する座長



住民参加による川づくりの事例
（天願川）